



旧制明治大学を率いた7人のリーダーたち

明治大学の前身である明治法律学校は、1881（明治14）年1月に開校しました。1903（明治36）年には明治大学と改称しましたが、法制上の位置づけは、私立学校令や専門学校令に基づく高等教育機関（私立専門学校）でした。

一方で、日本が近代国家として、政治・経済・社会などさまざまな点で着実に発展するのに比例して、国家や社会には高等教育を受けた人材が、それまで以上に求められるようになりました。また、当時は大正デモクラシー期と呼ばれる時代でもありました。

このような時代に、旧制大学設置の法的な根拠となった大学令（1918年12月勅令第388号）が制定され、それまで国立大学（帝国大学）のみであった大学に、公立と私立の大学が認められました。

当時の明治大学当局は、いち早く大学令に準拠した学則の制定、資金募集、設備充実に尽力しました。また、学生たちも学生大会で大学令に基づく旧制明治大学の発足を決議しました。こうして、1920（大正9）年4月に旧制明治大学が発足しました。

本展示では、旧制明治大学時代のリーダーを紹介するとともに、当時の明治大学の動向を点描します。

旧制明治大学の時代は、原則として総合大学であることと定めた大学令の規定に基づき、総合大学へと発展した時期でした。法・商学部の2学部でスタートしたのち、1925（大正14）年政治経済学部が設置され、女性のための高等教育機関として専門部女子部（1929年）、文学部の前身となる専門部文科（1934年）、理工学部の前身となる東京明治工業専門学校（1944年）、農学部の前身となる明治農業専門学校（1946年）等が設置されました。

旧制明治大学の歴史と伝統（あるいは歩み）の一端に触れていただければ幸いに存じます。

2013年5月

明治大学図書館
明治大学史資料センター

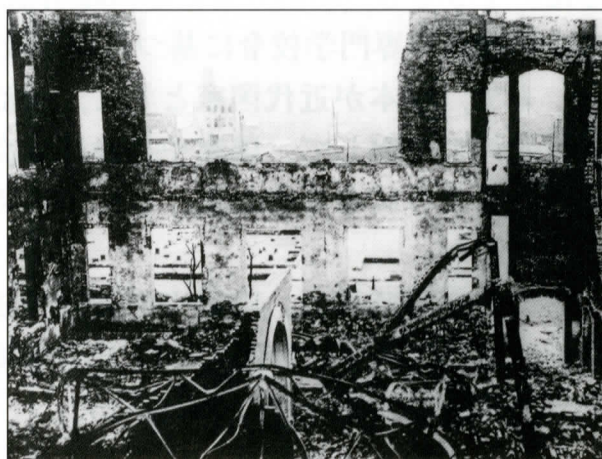
▶指揮を執る山田耕筰（大正期）

白雲なびくで始まる校歌が誕生したのは1920年です。



▶震災後の駿河台キャンパス（1923年）

関東大震災により、駿河台キャンパスは壊滅的な被害を受けました。



▶3代目（旧）記念館（1931年）

1928年に竣工した3代目記念館は、関東大震災からの復興記念校舎でもありました。



▶開設期の和泉キャンパス（1935年）

和泉キャンパスで予科の講義が行われるようになったのは1934年です。

